CPD 講座

オランダの近代産業遺産の保存と活用

第1回

社会的関心と創造的な産業の育成

Ivan Nevzgodin（イワン・ネブツゴティネ）■デルフト工科大学 准教授
翻訳＋編集…北尾靖雅

産業遺産の保存と活用を巡る議論が近年活発になってきた。ひょうごヘリテージ機構（H²O）は、2016年11月3日に神戸で、国際ヘリテージ神戸フォーラム「歴史的建造物とまちづくり――事例に学ぶ」を開催した。その際、本稿の原著者のネブツゴティネ博士が講演をした。本講座は、この講演に関わる内容を全2回で掲載し、オランダにおける産業遺産の保存と活用に関する知見を得ていく。

近代産業遺産保存活用の近年の動向

オランダでは、建築家と都市計画家は、保存修復建築家、一般市民だけでなく政治家たちと同様に、産業遺産の重要性に気づき始めるのに約30年の時間が必要だった。

オランダにおける近代産業遺産の保存と活用が公的に始まるのは1991年で、政府機関に記念建造物保護担当課（RDMZ）と産業遺産研究所（PIE）が設立された。1995年にはオランダ文化遺産局（RCE）が、かつての国立考古学研究所、文化景観および建築遺産研究所（RACM）、国立記念建造物局（RDMZ）の産業遺産目録を継承した。産業遺産研究所は、目録を整理するために産業遺産の分類を開発した。その分類とは、社会基盤、運輸、給排水設備、製品製造と販売、公共施設、通信技術、建設材料生産と建設関連施設、輸送車両の製造、消費財、装飾と宝石生産、農業、食品生産、化粧品、そして医薬品関連である。

この分類方法により、今日、オランダには約600の産業記念物を保護する評価が完了し、政府は1996年を産業遺産の年と位置づけた。

2000年にはオランダでは政府のより非営利的目的の開発事業者である国立産業遺産保存活用推進協会（BOEi）が結成され、固有性のある産業遺産を購入し、それらの遺産を修復して、将来的に採算が見込める活用事業計画のモデル事業の開発を始めた。この機関は修復と再利用事業のための資金調達のほか、産業建造物の許認可や賃借にも関わっている。

再利用された産業遺産は社会的にも知られ、産業遺産の領域が確立した。1916年に建設されたアムステルダムの西側にある堤防にあるヴェスタードコスダイクの旋回橋は2011年にレストランに改修された。かつては給水塔とポンプ場だったドードレヒトにあるヴィラ・アウグストゥス（1881～1882年）は2007年に改修が完了し、ホテル、カフェそしてレストランからなる複合施設となった。

著名な建築家も産業遺産の保存活用に関与するようになった。最近の事例として、プリツカー賞を受賞したピーター・ズントー氏の再生事例が挙げられる。ズントー氏は、製粉工場のデ・スローテルス（1896～1978年）を再生し、ライデンの旧城壁に位置づけた。彼は製粉工場をカフェ、レストラン、ホテルだけでなく、豪華なア

写真1（上） ブルッセルにて、ズントー氏（左）と工場所有者（2010年12月1日）。**（左）** デ・スローテルスの製粉工場。敷地はライデンの城壁に位置する（1896～1978、ライデン）（写真提供2点…原著者）

写真2　旧ファン・ネレ工場の外観と国際会議（第10回Docomomo International、2008）開催時の様子（写真撮影2点…北尾靖雅）

写真3　デ・クリクラウス（ポンプ場）。オランダの風景を形成する風車は干拓地の水を排出する施設である。産業革命後は石炭などを使うようになった（写真…Steffen Nijhuis, TU Delft）

パートメントとアトリエに再生利用する事業を提案した。ライデンの自治体と政府は、ズントー氏の提案は通常の基準と規則から外れていたが提案を認め、実現した[写真1]。

さらに、2004年にデザイン工房として用途転換された旧ファン・ネレ工場（ロッテルダム）は2014年に世界遺産となった[写真2]。

産業遺産の領域の開拓

オランダの産業遺産の保存活用は1933年に蒸気式ポンプ場のデ・クリクラウス（1849年）が建物を博物館に衣替えすることにより、解体の危機から救われたことから始まる[写真3]。このポンプ場には当時、世界最大のピストンを持つ機械があり、その機関は使用可能で、欧州の欧州産業遺産の道における重要拠点として位置づけられた[註1]。建築的な産業遺産の活用の初期の事例として、ロッテルダムにある下水処理場（建築家A.ファン・スツール）が挙げられる。この下水処理場はフィルターに水を通す浄水施設として建設された。この建造物は3つの部分から構成されている。それぞれは1929年、1941年、そして1950年に建造された。この複合的な建造物の機能が十分でなくなろうとしていたとき、「ユートピア」とよばれる活動団体が組織され、保存活動が始まった。このグループは1982年に、かつての沈殿タンクを活用し、140戸の低家賃の集合住宅に転換した。

しかし、1980年代でも産業遺産は極めて特殊な事例だった。重要な点は、この集合住宅の維持管理が保存を担当する公共事業主体によって行われたのではなく、市民によって行われた点である。当初、産業遺産の保存に関しては、技術者、建築家、一般市民が主導的に活動し、そのあとを追うように国や地域の担当部局が支援するようになった。国の保存部局の構成員は芸術や建築歴史の専門家によって構成されていた。彼らの関心は、建物のファサードのもつ建築様式とそれにかかわる芸術的な価値であった。しかし、状況はゆっくりと変化した。1950年代の英国で産業考古学の概念が知られるようになり、その後、1970年代に英国と米国で重要な概念として成長していった。

また、ベルギーの人々の産業遺産という新しい領域を開拓する活動は、オランダの産業遺産の認識を形成するために重要な役割を

持った。ルール地方のドイツの取り組みも非常にオランダに影響を与えた。

オランダにおける産業遺産の領域を開拓者したのはピーター・ナイホフ氏だった。彼はRDMZに在籍し、35年の在籍期間に産業遺産を調査していた。産業遺産の構造物に関わる維持管理の課題は、一般市民の関心が低いことだった[註2]。

一般社会の認識と建築的課題

当初、産業遺産の建造物は、醜く、受け入れがたいと考えられていた。産業遺産の空間は、そもそも産業に従事する人々だけが知り得る空間である。大規模な工場施設など、一般市民が知る機会はなかった。たとえば、アイントホーヘンのフィリップス社の工場のストライプ-Sは「紫禁城」と呼ばれたが、フィリップス社は徐々に人々に門戸を開放するようになっていった。他の事例として、デン・ヘルダー海軍工廠の造船施設がある。海軍施設なので、都市住民にはまったく無関係の施設であった。

写真4　ヘンヘンローの地域教育センター（写真提供…原著者）

産業施設は課題、技術革新、経済的状況、工場の海外移転、企業がより広大な敷地を求めるという産業上の転換により生じる。その一方で、地元住民は工場について否定的な感情を持っている。

ところが、後に懐古的な感情が生じる。そこで、技術的な観点から、社会の痕跡として都市の記憶を保存することの必要性が求められた。産業の歴史は、地域の固有性を形成していく過程において、重要な役割を担った。

私企業や不動産業者が産業遺産の価値を見出し始めた。その後、政府、州、自治体は産業遺産がある敷地は、経済の観点から都市の再編成に必要不可欠であると認識し始めた。特に創造的な人々やそのグループは、かつての産業用地を活動拠点として好んだ。

現在では、オランダのあらゆる自治体は創造的な産業育成により、地域のアイデンティティーを刺激するために、「文化的な工場」の概念を打ち出したいと考えるようになってきた。

産業遺産としての歴史的建造物は教育的な役割がある。これはとても重要である。こうした活用例として、ストールク地域にある鋳造所の再活用が挙げられる。ヘンヘンローの地域研修センター（ROC）である。改修を手がけたIAA事務所の建築家たちは、鋳造所（長さ150mのホール）の大聖堂のような巨大な空間をパブリックスペースに転換した。7,000人の学生と1,000人のインストラクターが利用する。この産業的なスケールの空間は「コミュニティ・カレッジ」として活用されている[写真4]。こうした巨大な建造物はランドマークとして一般に知られているので、建造物のスケールの持つ特徴があるために保存することは比較的に簡単だった。

しかし、かつての大規模な産業遺産のある敷地をどのように取り扱うのか？ どのようにして、新しい機能と巨大なスケールの建築物を群として、建物同士の諸関係を継承していくのか？ そのために、どのような改修工事を行うのか？ 最も価値ある特徴と保存されなければならない構成要素は何であるか？ など多くの課題がある。

オランダでは具体的な実践を通じて、産業遺産の変容に関する経験は、さまざまな機関が関与することによって徐々に積み上げられてきた。

産業遺産の保存活用の事例

産業遺産の最近の事例について以下に示す。

まず、1987年から始まったマーストリヒトのセラミック工場跡地の再生が挙げられる[註3]。デ・ティメールファブリックと呼ばれているスフィンクス社の工場施設は、出荷用の荷造り工場だった。この建物はマーストリヒトのスフィンクス社の工場内にある。現在、

写真5　アムステルダム西部地区のガスタンク施設の内部とそれを活用したイベント

この工場施設はポップ・ミュージックのイベントや展示会のために一時的に使われており、映画館が建設中である。この工場跡地に劇場を建設し、文化的な娯楽拠点に工場を活用することが意図されている。

次に、ティルブルグのデ・ポント美術館（1992年）が挙げられる。さらに、DRU製鉄所（2000年〜）や、ティルブルグのサービス付き高齢者用集合住宅（2002〜2004年）、アムステルダムの西部ガス工場（2003年）、デン・ボッシュのフェルカーデ工場（2006年）、デン・ハーグのカバレロ工場群（2006年）が挙げられる。

アムステルダム西のガス工場のデ・ヴェスターガスファブリックは有名なプロジェクトである。アイザック・ヘセンシャールクが1883年に建造した工場である。1993年6月1日にエナジー社は、西部ガス工場の敷地から完全に撤退した。このガスタンクの劇場には2,000席がある。劇場のこけら落としとして、1993年のオランダ・フェスティバルの枠組みの中でオペラ「アンティゴーネ」が公演された。後に、ガスタンクの劇場はオペラ、ファッションショー、展示会、車の新しいモデルの展示会などのほか、会社のパーティなどに使われた。

1994年から2000年にかけて、有名な芸能人のロコ・フェーンボエールは、ガスタンクでダンスパーティを催した。それはオランダ国を代表するテクノ音楽のイベントとして有名になった。アムステルダムの再生のなかでも非常に成功した一例となった[写真5、註4]。

謝辞
本稿は科学研究費16H02386の研究の一環として行った。また、発表の機会を与えていただいたひょうごヘリテージ機構に謝意を表する。

註1　下記参照…http://www.erih.net/about-erih/erih-membership/erih-members/site/show/steam-pumping-station-de-cruquius/ Last retrieved on the 1st of September 2016（2016年9月1日閲覧）
註2　下記参照…S: Nijhof, Peter; Schulte, Ed; Bemelmans, Harry, Herbestemming industrieel erfgoed in Nederland, Zutphen: Walburg pers, 1994.
註3　下記参照…Vercauteren, J.B.M. (ed.) Céramique Maastricht, Rotterdam: Publishers 010, 1996.
註4　本稿の原著論文は2016年11月の近代の産業遺産の保存と活用に関する国際シンポジウム「近代の産業遺産の保存と多様で魅力的な活用――日本、オランダ、イタリア、台湾の事例」（舞鶴）で発表された以下の原著論文に基づいている
「A Paradigm Shift in the Adaptive Reuse of Dutch Industrial Heritage in the 1990-2010s」Ivan Nevzgodin,2016, Maizuru, Japan

イワン・ネブツゴティネ
オランダの港湾都市の船舶関連施設の保存活用に関わる近代建築史の研究者。ソビエト連邦の工業都市の研究やオランダ、ロシアを中心に修理や保存の研究を展開している。博士論文（デルフト工科大学、2004年）は、「西シベリアにおける近代建築運動の影響――1920年代から1940年代の建築と都市計画」。著書に『ノボシビルスクの建築』（2006年）など

自習型認定研修の設問

設問1

1930年代のオランダにおける産業遺産の活用例は、次のどれか。

a. デ・クリクラウス
b. スホクラント
c. キンデルダイク

設問2

近現代のオランダにおける産業遺産の保存と活用はどのように始まったのか。

a. 国威発揚のため政府主導で進められた。
b. 州の観光政策として進められた。
c. 市民活動から始まった。

認定教材の設問への回答は、
CPD情報システムのページ
https://jaeic-cpd.jp/
にアクセスのうえ、お願い致します。

※不正解の場合は、
単位に登録できない場合があります。
※自習型教材の選択欄における、
会誌『建築士』選択項目は、
平成28年1月より建築士会会員のみの
表示項目になります。